Ⅰ．教育事業報告

1．長野県初 松本大学×道の駅「中条」×国土交通省 連携企画 松本大学総合経営学部による道の駅「中条」を拠点とした地域活性化 ー88（やまんば）プロジェクトー

総合経営学部総合経営学科　清水　聡子

（1）はじめに

松本大学と道の駅「中条（なかじょう）」及び長野国道事務所は、長野県初の連携企画型の実習を開始した。連携企画の実施にあたり、本学と道の駅「中条」指定管理者アクティオ株式会社は事業連携・推進に関する協定を締結し、道の駅「中条」を拠点とした地域づくりと地域活性化を図ることにより、地域発展と学生教育に寄与することを目的とした。

この協定は道路利用者へのサービスが中心であった「道の駅」を地域の拠点として活用し、さらに大学と連携することによって、若者との交流をすすめ新たな価値の創出を期待するという、国土交通省の「道の駅を利用した地域活性化」事業の一環である。総合経営学部は本企画に積極的に参画し、道の駅「中条」を拠点に地域貢献と学生教育を進めようとしている。

道の駅のある旧中条村（現長野市中条）は山姥伝説の里として知られている。学生は88（やまんば）プロジェクトを立ち上げ、「子育ての神：山姥（やまんば）伝説の里」中条を応援します！として、活動を開始した。中条地域の活性化に向けて中条のお宝を探し、長野市中条地域最大「むしくらまつり」では5つの企画が実現した。また全国初の道の駅と大学連携成果発表交流会にも参加し、学生はプレゼンテーションを行った。本稿では、88プロジェクトにおける1年間の活動を報告する。

（2）アウトキャンパス・スタディによる現地調査 ー道の駅「中条」から地域を学ぶー

2015年5月29日（金）、総合経営学部の学生19名と教員5名（室谷心総合経営学部長、矢﨑久総合経営学科長、増尾均観光ホスピタリティ学科長、小林俊一総合経営学科教授、清水）、計24名で、道の駅中条を拠点に、地域の魅力を探索する産・官・学のキックオフ・ミーティング（アウトキャンパス・スタディ）を実施した。

長野市商工観光部小柳仁彦産業政策課長にアウトキャンパス・スタディのコーディネイトをお願いし、長野市商工観光部白岩孝之様、増田彩香様には当日のナビゲーションをお願いした。

2010年1月1日（金）、長野市と信州新町と中条村が合併した。長野市中条は善光寺平の西に位置し、山姥伝説で知られる虫倉山に抱かれたところにある。東に菅平、浅間山、南に聖高原、美ヶ原、西に北アルプスを望む自然と文化、歴史の残る美しい山里だ。

長野市中条の説明を小川博史道の駅中条副施設長より伺う。総人口2,023人、90歳以上の方が118人、高齢化率48％（2014年8月1日調べ）、皆さんご長寿でお元気とのこと。しかし耕作放棄農地、間伐放棄山林の増大、空家、高齢者の独り暮らしの増加等、問題を抱えている。また地元の伝説に詳しい小林喬様から山姥伝説のお話を中心に伺った。

次に事前学習の成果を学生が発表した。山姥（やまんば）の“や”と“ば”を数字の8で表現したら面白い！と学生の柔らかい発想から生まれた「88（やまんば）プロジェクト」。プロジェクトの立案、大豆バターや山姥グッズなどの試作品を紹介した。

昼食は道の駅「中条」売上NO.1のおぶっこ、豆乳ドーナツ、中条産りんごソフトを下内光雄中条地域統括にご準備いただいた。素材、味、健康にこだわり、地域の独自性を追求したメニューを大変美味しく頂戴した。

素晴らしい青空のもと、山々に囲まれた山姥伝説の場所を巡り、臥雲院、栃倉の棚田（日本の棚田100選）を見学し、中条の魅力を五感で吸収する機会であった。中条という地域を知って、何ができるか、学生の創造（想像）の翼が広がるアウトキャンパス・スタディとなった。

太田の水車前で集合写真

虫倉山の山姥伝説の像

中条地区の案内標識

（3）松本大学と道の駅「中条」指定管理者アクティオ株式会社の協定締結

長野県初、本学と道の駅「中条」及び長野国道事務所3者で連携企画型の実習に伴い、本学と道の駅「中条」指定管理者アクティオ株式会社との間で、事業連携・地域活性化の推進の協定を締結し、2015年7月7日（火）に記者会見を実施した。護摩堂満長野国道事務所長、久保田高文長野市商工観光部長、岡部禎之アクティオ株式会社常務取締役よりご挨拶を頂戴した。住吉廣行学長は本学の存在意義と今後の地域貢献について抱負を述べ、室谷心総合経営学部長は協定内容を説明した。

総合経営学部では国土交通省の推進する「道の駅を利用した地域活性化」に積極的に参画し、地域貢献と学生教育を進めようとしている。長野市中条地域の活性化に向けて①「子育ての神：山姥（やまんば）伝説の里」中条のお宝探し、②中条地域最大「むしくらまつり」の連携・協力の実施が決定した。

会見後、学生が企画した授業に、岡部禎之アクティオ株式会社常務取締役、植山貴司営業課長、下内光雄中条地域統括、小川博史道の駅中条副施設長にご参加いただいた。

88（やまんば）プロジェクトを具体化するために、学生はコンセプトやロゴマークを考案し、88プロジェクトのイメージ像を発表した。また11月3日（火）に行われる長野市中条地域最大の「むしくらまつり」のイベント案を検討しはじめた。

道の駅「中条」を運営するアクティオ株式会社の皆様との議論は学生にとって刺激的な内容だ。どのアイデア（種：seeds）が、芽（Needs）を出し、花となり実（Goods）をつけるか予想し検討することは、総合的に経営を学ぶ総合経営学部の学生にとって、“実践で学ぶ”素晴らしい教育の場となっている。道の駅「中条」で未知の楽しさを知り、地域課題に対し研究を進め、道を究めていきたいと思う学生の気持ちを醸成できれば、地域活性化と学生の教育の両面で成果を収めることが期待できる。

連携協定記者会見の様子

道の駅中条施設長よりおからと西山大豆の提供

学生によるプレゼンテーション

(4) 88プロジェクト開発商品誕生

2015年10月23日（金）、総合経営学科の学生8名と教員2名（小林俊一総合経営学科教授、清水）の計10名は、道の駅「中条」でアウトキャンパス・スタディを実施し、2015年11月3日に行われる長野市中条地域最大の「むしくらまつり」88プロジェクト最終ミーティングを行った。

・「子育ての神様：やまんばの里キーホルダー」のデザイン企画
・「西山大豆おからドッグ」（惣菜パン）の商品開発
・「88プロジェクトスタッフジャンパー」ロゴのデザイン企画
・「88プロジェクトDance Show Time in道の駅中条」（ダンスイベント企画）

学生が企画開発した商品を販売するとともに、企画イベントの実施が決定した。また、

・「きのこ千人鍋」の調理・ふるまい企画

は、むしくらまつり当日、学生が担当することとなった。

学生デザインのキーホルダー

学生によるプレゼンテーション

学生が作成したPOPデザイン（1）

POPデザイン（2）

(5) 長野市中条地域最大「むしくらまつり」の連携・協力

2015年11月3日（火）、総合経営学部の学生19名、人間健康学部の学生1名と教員4名（住吉廣行学長、室谷心総合経営学部長、小林俊一総合経営学科教授、清水）、計24名で、長野市中条地域最大「むしくらまつり」に参加し、考案した88（やまんば）プロジェクトを実施した。

学生はむしくらまつりのコンセプトを「家族で楽しむ子育てフェスへ」に決定し、子どもを育てる優しいやまんばを全面に出すことで、やまんばのイメージアップを図りながら来場者にむしくらまつりを楽しんでもらう5つの企画を実現させた。

1. 「子育ての神様：やまんばの里キーホルダー」のデザイン企画

子育ての神様：やまんばにちなんで家族をテーマにしたキーホルダーを作製した。学生はデザインを手がけ、やまんばの子どもは金太郎で、その父親は竜という言い伝えを取り入れた。子育てのお守りのような感覚で身に付けてほしいと願い、販売のためのPOPおよび看板も学生が制作した。

2. 西山大豆おからドッグ

中条地域の特産物である西山大豆の力を引き出すために、試作を重ねた西山大豆おからドッグ（惣菜パン）を2種類開発した。ひじき入りはソフトな舌触りと健康志向の方へ、ひじき無しは鶏ひき肉を多めにして噛みごたえを出したボリュームのあるお昼を望む方へ、異なるターゲットを意識して商品化した。

3. 88プロジェクトスタッフジャンパー

やまんばの“や”と“ば”を数字の8で表現したら面白い！学生の柔らかい発想から生まれた「88プロジェクト」。まず88プロジェクトのロゴ制作からスタートした。道の駅「中条」から未知に出会うドキドキ感を表現するために数字の8に目をつけた。中条地域がより元気になるようにという学生の思いが形になったジャンパーとなった。

4. 88プロジェクトDance Show Time in 道の駅中条（ダンスイベント企画）

ダンスの得意な学生が考案したダンスイベントで、Kidsダンサー9名が本格的なダンスを披露した。来場者が一緒に踊ることができるように88プロジェクトのメンバーは目立つスタッフジャンパーを着て、率先して踊った。会場が一体となったイベントとなった。ダンススクールの先生のご協力をいただいた。

5. きのこ千人鍋の調理・ふるまい

きのこ千人鍋の作り方をお教えいただきながら、調理し、無料で来場者の皆様にふるまった。千人鍋であったが、あっという間に鍋は空になった。大勢の皆様の笑顔に支えられた企画となった。

例年4,000名が来場するむしくらまつりであるが、2015年は演歌歌手の三沢あけみショーも行われ、来場者はのべ6,200名となり大変な賑わいとなった。道の駅「中条」の皆様から「学生たちの新しい企画でむしくらまつりが盛り上がった。お年寄りや子どもたちに喜んでもらえた」と嬉しい感想をいただいた。

おまつりは地域のアイデンティティ（存在証明）であると考えられる。学生は「むしくらまつり」において、松大生として、自分に何ができるかを問いかけ、惜しみなく力を注いだ。学生の思いに寄り添い、一緒に向き合ってくださった道の駅「中条」の皆様、中条地域の皆様、ご来場者の皆様に感謝を申し上げたい。

キーホルダーの販売を楽しむ学生

2種類の西山大豆おからドッグを販売

スタッフジャンパーを着てイベントを行う学生

ダンスイベントを企画した学生が
Kidsダンサーと来場者とともに踊る

きのこ千人鍋の調理・ふるまいをする学生

(6) 道の駅「中条」をフィールドとした理論と実践の融合を目指して

2015年12月5日（土）、総合経営学科の学生9名と清水の計10名は、広告の歴史と未来がわかる国内で唯一のミュージアムであるアド・ミュージアム東京でアウトキャンパス・スタディを実施した。第11回クリエーティブトップナウ展「冒険があるか。」を見学し、デザインや表現の領域における可能性について考察した。

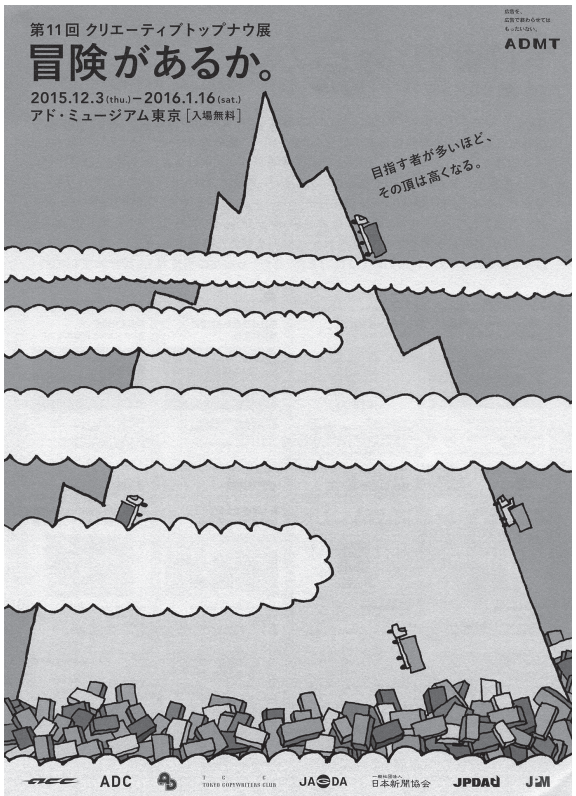
クリエーティブトップナウ展は、メディア広告のみならず屋外広告、プロモーションやデザイン・商品パッケージなどさまざまな領域に広がるマーケティング・コミュニケーションを対象とした広告賞展である。冒険はあるか！驚きはあるか！今までにない新しさはあるか！と新しい価値を問うたくさんの「冒険」を目の当たりにし、学生はクリエーティブの本質を感じたことであろう。

また学芸員の坂口由之先生と元法政大学教授の福田敏彦先生からゼミナール形式で地域ブランド戦略を学んだ。『ストーリーとしての競争戦略』（楠木建著2010年出版）により、経営の分野においてもストーリー（物語）に注目が集まっているが、1990年に『物語マーケティング』を出版している福田先生の問題提起と坂口先生の具体的な事例による解説は大変興味深い内容であった。

D.アーカー（David Aaker）は「ブランドとは未来の成功のための足場であり、その組織のために継続的な価値を生み出すものである。」また「ブランドにはブランド・ビジョンが必要である。そのブランドにこうなってほしいと強く願うイメージを、はっきりと言葉で説明したものだ。」と定義する。こうなってほしいと強く願う中条地域のイメージをストーリー化することで、地域の未来の成功のための足場づくりとなればと考えている。道の駅「中条」をフィールドとした理論と実践の融合を目指していきたい。

坂口由之先生の解説を聞く学生

広告の歴史に関するポスターを見学する学生



「冒険があるか。」のポスター

（7）全国初、道の駅と大学連携成果発表交流会に参加して

2016年3月14日（月）、さいたま新都心合同庁舎にて、道の駅と大学連携成果発表交流会が開催され、総合経営学部総合経営学科3年の阿部愛さん、上野佳奈恵さん、酒井祥子さん、室谷心総合経営学部長、矢﨑久総合経営学科長、赤羽雄次管理課長、清水の計7名で参加した。

道の駅中条（なかじょう）と松本大学とのコラボレーション企画、「88（やまんば）プロジェクト」は山姥伝説を学び、山姥伝説ゆかりの地を巡り、①「子育ての神：山姥（やまんば）伝説の里」中条のお宝探し、②中条地域最大「むしくらまつり」の連携・協力を行ってきた。

道の駅と大学連携成果発表交流会では12の大学が成果を発表し、松本大学の出番は12番目、取りを務めた。参加者109名の会場から、88プロジェクトのコンセプトが面白い、88プロジェクトのロゴ入りスタッフジャンパーがかわいいと声がかかった。また道の駅中条の皆様から発表が素晴らしかった、溢れる若い発想力とエネルギーに期待とお褒めの言葉と西山大豆リンゴケーキをお土産に頂戴した。

成果発表会に参加した阿部さん、上野さん、酒井さんに感想をまとめてもらった。

阿部さん：今回、他大学の成果発表を聴かせていただく中で、改めて私達が半年の間に行ってきたことはなかなか経験できない貴重なものであったと感じました。これからも地域自慢の種を育てていけたらと思います。

上野さん：どの大学も地域の宝を有効に利用して商品開発を行ったりイベントを行ったりしていて、とても参考になりました。良いところをたくさん吸収して今後に生かしていきたいです。

酒井さん：各大学の活動を聞いて、自分には無かった考えを知ることができました。商品ラベルのデザインに刺激を受けました。今まで知ることのなかった他大学の活動を知ることができて良かったです。これからに活かしていけるように頑張りたいです。

長野市中条地域の活性化のために、学生はゼロベースで考え、企画・立案し、道の駅中条の皆様と実施し、成果をプレゼンテーションすることができた。地（知）の拠点として、さらに地域に求められる“松本大学×道の駅中条”の取り組みにできればと考えている。

発表する阿部さん、酒井さん、上野さん

下内光雄中条施設統括からコメント

発表者の3学生とポスター

(8) むすびにかえて

「道の駅」は、1993（平成5）年に創設された制度で、市町村等からの申請に基づき、国土交通省道路局で登録を行っている。2016年度オープン予定の14駅の登録が行われ、全国の「道の駅」は、1,093駅となる。長野県内では飯島町「田切の里」の1駅が登録され、県内の「道の駅」は43駅となる。

松本大学と道の駅「中条（なかじょう）」及び長野国道事務所は、長野県初の連携企画型の実習を開始した。連携企画の実施にあたり、本学と道の駅「中条」指定管理者アクティオ株式会社は事業連携・推進に関する協定を締結し、道の駅「中条」を拠点とした地域づくりと地域活性化を図ることにより、地域発展と学生教育に寄与することを目的とした。

初年度にも関わらず、長野県初の連携企画で多くの成果を上げることができたのは、松本大学と道の駅「中条」指定管理者アクティオ株式会社が事業連携協定を締結し、組織対組織で対応したことに他ならない。松本大学総合経営学部は学部をあげて、室谷心総合経営学部長、矢崎久総合経営学科長、増尾均観光ホスピタリティ学科長、小林俊一総合経営学科教授とさまざまな分野の教員が参加した。また、赤羽雄次管理課長による事務業務の全面的なサポートは非常に大きな組織の力となった。さらに「むしくらまつり」には住吉廣行学長と学生20名も参加し、大学あげての取り組みとなった。

アクティオ株式会社も組織で対応してくださった。下内光雄中条地域統括、小川博史道の駅中条副施設長、植山貴司営業課長は学生のさまざまなアイデアに耳を傾け、実施に向けて一緒に楽しみ、取り組んでくださったと同時に、企業として利益を生み出すことの大切さについて連携事業を通して示してくださった。また岡部禎之常務取締役は学生の企画した授業に参加し、学生が積極的に挑戦できるよう学生の背中を押してくださった。

学生は88プロジェクトを立ち上げ、松本大学の学生としてできることは何か、地域のためにできることは何か、とアイデアを出し続けた。中条地域の特産物である西山大豆を使って試作した大豆バターや山姥伝説からイメージを膨らませたととっ毛のお菓子の構想、いくつもの88ロゴマークやイベント広場の利用方法など、多岐にわたった。そうしたアイデアの中から、今年度は5つの企画が実現した。

西山大豆おからドッグ（惣菜パン）は道の駅「中条」の人気商品である豆乳ドーナツを生産する際に廃棄されていたおからを活用した商品だ。商品化のために試作を繰り返したのはもちろんだが、原価計算から利益を生み出し、大量生産に耐えうるように調理方法の変更も行われた。

商品化の過程には検討しなければならない多くの課題がある。総合的に経営を学ぶ総合経営学部の学生にとって、“実践で学ぶ”素晴らしい教育の場となっている。2016年度も道の駅「中条」をフィールドとして、理論と実践の融合から地域発展と学生教育を目指していきたい。

さらに学生自身が問題や課題を見つけ、課題解決型実習（Project-Based Learning）となるようなプログラムとしたい。効果的な学習となるよう、学習者の動機づけや達成感情を意識し、学びの楽しみを生み出すことができればと考えている。教育が地域に与える影響を最大限活かすことができるよう、“松本大学×道の駅中条”の取り組みがイノベーティブな事例研究（Innovative Cases）（『学習の本質－研究の活用から実践へ－』（OECD教育研究革新センター編著2013年出版）となることが望まれる。学生には自分が行動することによって自分も社会も変化することを体感してほしい。そし

て地域活性化の核である地域自慢の種を発見し、地域の方々と一緒に育てることを楽しんでほしい。

最後に、アイデアを出し続け、惜しみなく力を注いだ学生の皆さんと、学生の思いに寄り添い、一緒に向き合ってくださった道の駅「中条」の皆様、中条地域の皆様、そして新たな学習の場を提供してくださった国土交通省の皆様、なかでも関東地方整備局長野国道事務所計画課長でいらした髙橋哲様にお礼を申し上げたい。ありがとうございました。中条へ「さぁさ、よっとくらえ！」。今後とも応援をお願いいたします。

〈提案〉

〈商品化〉

むしくらまつり終了後の集合写真

資料：『信濃毎日新聞』（2015.7.8）

長野の道の駅「中条」

指定管理者と松本大が協定

地域活性化で連携

松本市新村の松本大は、長野市中条住良木の道の駅「中条」を運営する指定管理者アクティオ（東京）と共同で地域活性化につながる事業などに取り組む連携協定を結び、松本大で7日、記者会見を開いた＝写真。道の駅の登録をする国土交通省長野国道事務所（長野市）によると、県内に42カ所ある道の駅が大学と協定を結ぶのは初めて。松本大の学生が今後、道の駅を拠点に活動、地域の催しに参加したり情報発信を担ったりして地域活性化につなげる。期間は、協定を締結した6月25日から2016年3月末まで。

具体的には、長野市中条地域で子育ての神様とされる山姥伝説や、西山大豆などの特産品を生かし、商品開発や情報発信をする「88（やまんば）プロジェクト」に取り組む。学生は、道の駅を主会場に11月3日に開く「むしくらまつり」にも参加する予定だ。

記者会見には長野国道事務所や、道の駅「中条」を所有する長野市の職員らも含め15人が参加した。アクティオの岡部禎之常務は「学生の柔らかい考え方を具体化し、地域活性化を図りたい」とあいさつ。松本大の住吉広行学長は「松本大は開学以来、地域貢献を理念にしてきた。大学を挙げて協働の事業を成功させたい」と抱負を述べた。

資料：『市民タイムス』（2015.7.8）

（３）平成２７年(2015年) ７月８日 水曜日

連携協定を結んだ住吉学長（左から２人目）と岡部社長補佐（同３人目）ら関係者

松本大 道の駅と連携協定

地域活性化 長野の中条と

松本市新村の松本大学（住吉広行学長）と、長野市の道の駅中条の指定管理者・アクティオ（東京都）が、同道の駅を拠点とした地域活性化のための連携協定を結んだ。同大総合経営学部3、4年生の学生が中心となり、長野市中条地区の観光情報の発信や、特産品を活用するアイデアの提供などを行う。

7日に住吉学長と、アクティオの岡部禎之社長補佐が同大で記者会見をして概要を説明した。国土交通省が推進する「道の駅を利用した地域活性化」事業の一環で、大学と道の駅の協定は県内では初めてという。

協定期間は来年3月31日までとなる。情報発信やアイデア提供のほか、11月上旬に開かれる中条地区の祭り「むしくらまつり」に学生が参加し、住民と一体となってイベントを盛り上げることも計画している。住吉学長は「大学として住民と協力しながら地域の期待に応えていきたい」と話している。

（松田元樹）

2016.3.14ポスター

国土交通省 関東地方整備局

国土交通省では、全国各地で、「道の駅」と大学との連携を実施しています。この取り組みは、地域の魅力の集まる「道の駅」と大学生の交流により新たな価値の創造を図り、観光地域づくりなどを担う将来の人生育成や地方創生にも寄与が期待されているところです。